

『光る君へ』 × 「西国三十三カ所観音巡礼」

2024年NHK大河ドラマ『光る君へ』は、猛々しい武家の物語から一転、優美な平安文学の世界へと視聴者を誘ってくれます。ドラマで取り上げられる『源氏物語』（紫式部）や『枕草子』（清少納言）が奈良期718年開創の日本最古の巡礼コース「西国三十三カ所観音巡礼」（西国巡礼）と深い関りがあることを御存じでしょうか？

ちなみに、四国八十八カ所お遍路は、平安期815年に弘法大師空海が開創、坂東三十三カ所巡礼等の各地の観音巡礼はこの西国巡礼を起源としております。

西国巡礼の開祖は、長谷寺の徳道上人ですが、世間に広めるまでには至らず、止む無く十三の御法印を中山寺に収めました。平安期、忘れ去られていた巡礼路を中興したのが、ドラマに登場していたあの「花山法皇」とされています。

藤原氏の陰謀に嵌り、出家させられた法皇は、苦渋の日々を送る中で、一念発起、西国巡礼の旅に出立（988年頃）。那智「青岸渡寺」（和歌山県那智勝浦町）から、谷汲「華嚴寺」（岐阜県揖斐川町）までの現在の二府五県・約1000kmを走破したとされます。その後、平安期から江戸期にかけ、西国巡礼は、皇室や公家から、庶民に至るまで、「お伊勢参り」とともに「心穏やかに巡る憧れ旅」として発展しました。

ここでは、2017年から西国巡礼を始めている長谷部特別顧問がお参りした、『光る君へ』縁の十カ所をご紹介します。

- ・**第一番札所「青岸渡寺」**（三重県那智勝浦町）・花山法皇の千日瀧籠行で知られる世界遺産・熊野の霊場。日本最大落差（133m）の那智の滝を目近に拝めます。
- ・**第六番札所「壺阪寺（南法華寺）」**（奈良県高取町）・枕草子「寺は壺阪・・・」で掲載。大和三山（畝傍山・天の香具山・耳成山）、大和の古代宮（飛鳥・藤原・平城）跡が点在する奈良盆地全体を南側から一望できます。
- ・**第八番札所「長谷寺」**（奈良県桜井市）・万葉集の歌枕・泊瀬の川沿いの丘陵に位置する源氏物語第二十二帖「玉鬘」の舞台です。平安京の大宮人にとって、三日で辿り着く、リゾート地でもあり、藤原道長を始め紫式部・清少納言・藤原道綱（道長の異母兄）の母（『蜻蛉日記』の著者）も訪れたとされます。物語に登場する「二本杉」も拝めます。
- ・**第九番札所「興福寺南円堂」**（奈良市）・藤原氏の氏寺。道長の祖である藤原北家・藤原内麻呂追善のため、嵯峨天皇に仕えた藤原冬嗣が建立。興福寺は春日大社とともに藤原氏の象徴です。
- ・**第十番札所「三室戸寺」**（宇治市）・宇治は源氏物語「宇治十帖」の舞台。宇治は藤原頼道（道長と源倫子の長男）が建立した平等院鳳凰堂が有名ですが、三室戸寺は瀟洒な花の寺であり、境内に「浮舟」の石碑（古跡）があります。

- ・第十三番札所「石山寺」(大津市)・・・源氏物語着想の地として知られます。本堂の「紫式部・源氏の間」では、平安装束を纏う紫式部人形が筆をとるポーズで展示されています。
- ・第十四番札所「三井寺」(大津市)・・・紫式部の父であり花山天皇に仕えた藤原為時が出家した寺。天智・天武・持統天皇縁の御寺。春は琵琶湖を望む桜のミュージアムとなります。
- ・第十五番札所「今熊野観音寺」(京都市)・・・清少納言が仕えた、一条天皇の中宮・藤原定子(道長の兄である道隆の長女)縁の泉涌寺の塔頭です。
- ・第十六番札所「清水寺」(京都市)・・・修学旅行の定番ですが、源氏物語第四帖「夕顔」の舞台です。また、紫式部が仕えた藤原彰子(道長と源倫子の長女。定子出家後の一条天皇の中宮、後一条天皇・後朱雀天皇の生母)の病氣平癒のために紫式部も参拝しました。
- ・第二十四番札所「中山寺」(兵庫県宝塚市)・・・花山法皇が、徳道上人が納めた御法印を石の櫃から探し出した寺。安産祈願で知られ、特に、祈願成就した明治天皇の御平産は有名です。

現世での救いを授けて頂ける観音様を愛でながら、美しい御朱印を頂戴する文学の旅。西国巡礼は、混乱・苦難に満ちた現代における、「至極の旅」だと言い切れます。是非、開創千三百年の時を感じながら御朱印帳を片手に、マイペースにてお参りなさってください。

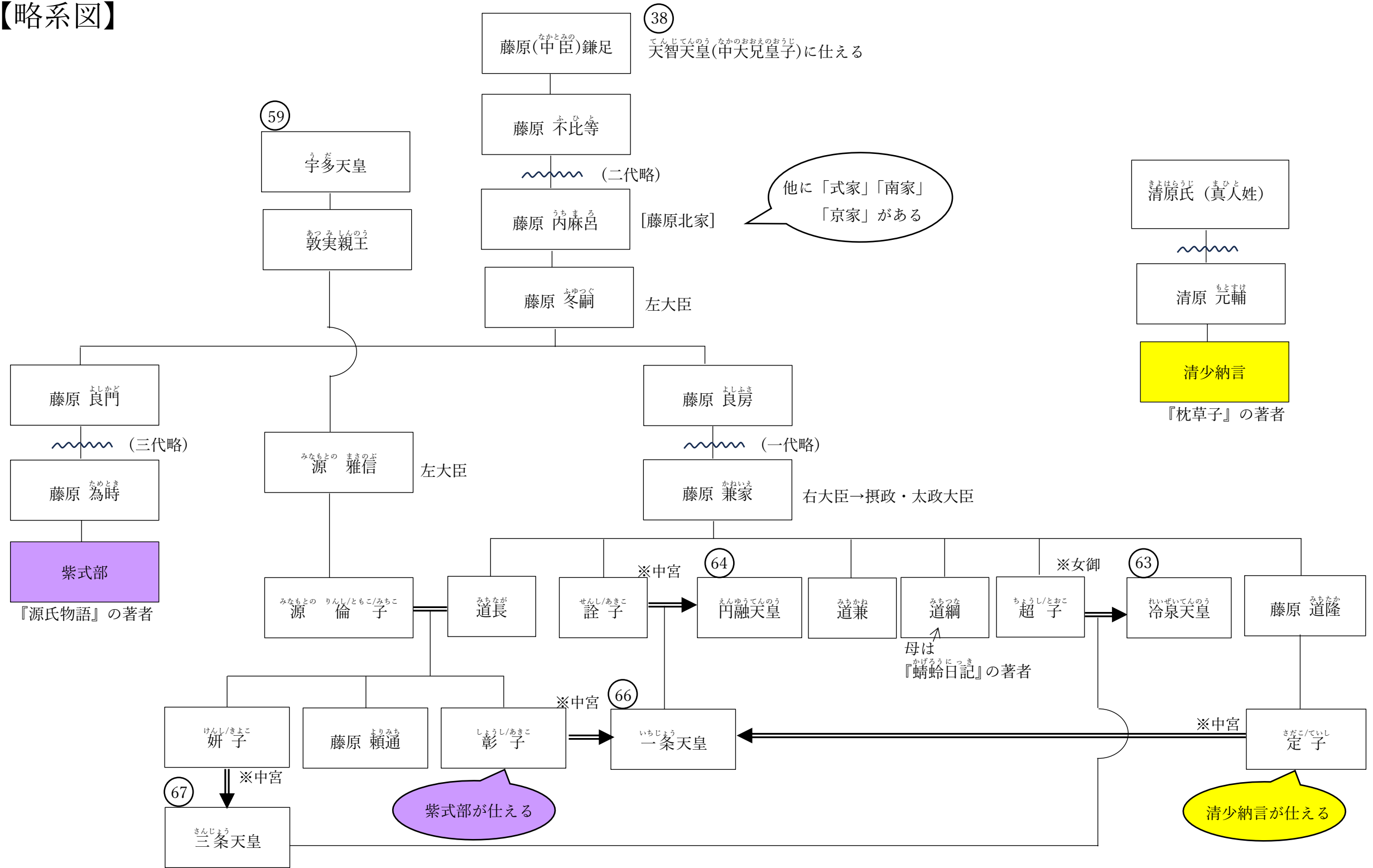
いくたびも 参る心は はつせ寺 山もちかいも 深き谷川

—花山法皇の長谷寺での御詠歌—



☆令和六年大河ドラマ記念の特別御朱印(上:長谷寺、下:壺阪寺)。紫式部・清少納言の挿絵が映えます。事務所応接室にて御覧になれます。

【略系図】



- ※ ○は天皇の代数
- ※ 中宮は皇后又は同一資格の後のこと
- ※ 道長は藤原兼家・時姫の三男